

フィリピン貿易研修センター 事業計画打合せ調査団報告書

平成2年(1990年)9月

国際協力事業団
鋁工業開発協力部
鋁工業開発技術課

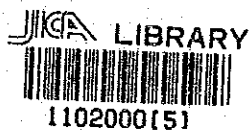
鋁開技

J R

90 - 153

ARY

フィリピン貿易研修センター 事業計画打合せ調査団報告書



24519

平成2年(1990年)9月

国際協力事業団
鋳工業開発協力部
鋳工業開発技術課

国際協力事業団

24519

序 文

フィリピン共和国は、1986年以降アキノ政権による地方経済の活性化、国営企業の民営化及び投資環境の整備などの民間主導の経済運営を中心に改善を進め、着実に経済再建の兆しを見せている。

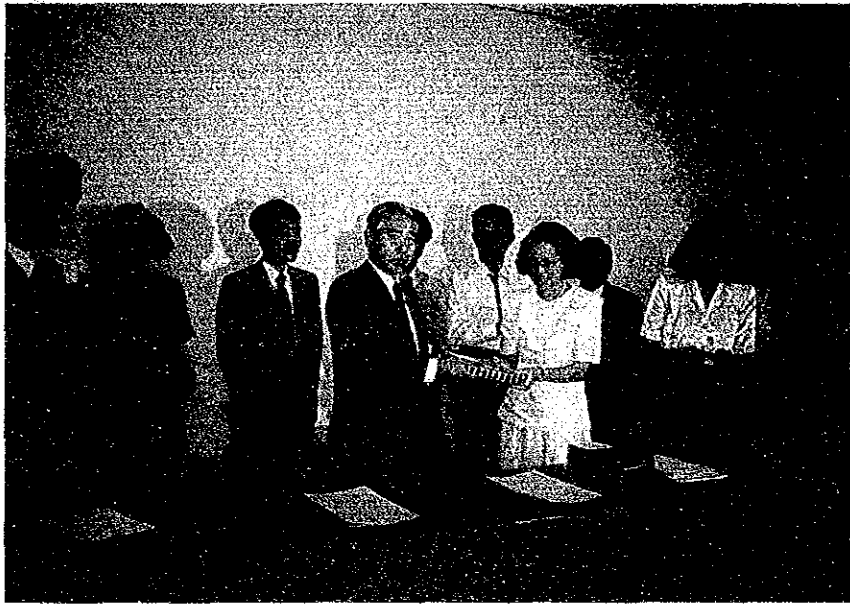
こうした中、本プロジェクトは特に、同国の輸出振興を図るため、貿易実務に精通した人材養成を目的として開始して以来、既に3年を経過した。これまでに本貿易研修センターは数多くのセミナーを開始しており、その内容も徐々に高度化してきている。

本報告書は、平成3年度の技術協力計画を作成するために派遣された計画打合せ調査団の調査結果をとりまとめたものである。

ここに本調査団派遣に関し、御協力いただいた関係各位に深甚なる謝意を表すとともに、今後とも本件技術協力の成功のために一層の御支援をお願いする次第である。

平成2年9月

国際協力事業団
鉱工業開発協力部
部長 山崎宗重



ミニッツ署名



PTTC内見学

目 次

I. 調査団概要	1
1. 派遣目的	1
2. 調査団構成	1
3. 調査日程	1
4. 主要面談者	2
II. 全体的協議事項	3
1. プロジェクト運営状況	3
2. 現状の課題と対応策	3
III. 個別分野協議事項	5
1. 貿易研修	5
2. 輸出検査(家具)	8
3. " (繊維)	10
4. " (食品)	13
5. 展示	16
6. 商業日本語	17
IV. 調査団所感	19
1. プロジェクトを抱える問題点	19
2. 今後の課題	21
3. PTTCの将来	23
付属資料	
1. ミニッツ	25
2. Joint Committee Meeting 議事録	40
3. Small Group Meetings 議事録	53
4. Status Report on the JICA-PTTC Project Jan-Aug 15, 1990	83

I. 調査団概要

1. 派遣目的

本プロジェクトも開始より3年半が経過しており、協力期間の最終段階に入ったことから、今までの協力内容・技術移転度を総括するとともに、プロジェクト終了にむけての活動計画を策定することが本調査団の目的である。

2. 調査団構成

	氏名	担当業務	所属
団長	長 沢 幸 敏	総 括	国際協力事業団 鉦工業開発協力部鉦工業開発技術課課長
団員	高 木 繁	技術協力計画	通商産業省 通商政策局経済協力課
団員	橋 村 恒 男	輸 出 検 査 (工業産品)	通商産業省 通商産業検査所総務部企画室
団員	穴 井 達 也	輸 出 検 査 (農業産品)	農林水産省 食品流通局消費経済課
団員	足 立 正 美	業 務 調 整	国際協力事業団 鉦工業開発協力部鉦工業開発技術課

3. 調査日程

9月 5日(水)	午後	マニラ着、JICA事務所打ち合わせ
6日(木)	午前	貿易工業省・日本大使館表敬
	午後	専門家と打ち合わせ
7日(金)	午前	P T T C 側と分野別協議
	午後	P T T C 側と全体協議、P T T C 主催パーティ
8日(土)	午前	Joint Committee (於 P T T C)
	午後	専門家と打ち合わせ
9日(日)		資料整理
10日(月)	午前	P T T C 側と全体協議
	午後	ミニッツ案作成
11日(火)	午前	ミニッツ署名
	午後	JICA事務所・日本大使館報告、調査団主催パーティ
12日(水)	午後	マニラ発

4. 主要面談者

(フィリピン側)

Francisco V. Rosario	貿易工業省 (DTI) 次官
Antonio J. Tirona	貿易工業省輸出振興局局長
Benicio C. Eusebio, Jr	貿易工業省輸出振興局局長 (次期)
Angelina V. Angeles	貿易研修センター (PTTC) 所長

(日本側)

佐味祐介	日本大使館一等書記官
林田直樹	日本大使館一等書記官
竹内喜久男	JICA事務所次長
斉藤克郎	JICA事務所所員
秀島敬一郎	JICA専門家 チームリーダー
三木隆文	" 業務調整
川喜多宏一	" 貿易研修
竹内阪蔵	" 輸出検査 (家具)
塚越郁生	" 輸出検査 (繊維)
茂住和世	" 商業日本語

II. 全体的協議事項

1. プロジェクト運営状況

(1) セミナー開催実施 (1/～8/15)

		マニラ	地方	計	参加者数
J I C A 関係	貿易研修 (内商業日本語)	32 (6)	11 (1)	43 (7)	1823 (171)
	輸出検査 - 家具	2	0	2	34
	“ 繊維	9	0	9	188
	“ 食品	4	0	4	73
	展 示	5	7	12	410
小 計		52	18	70	2528
他期間との共催		25	7	32	1663
合 計		77	25	102	4191

(2) 予算措置状況

1990年予算 19,862千ペソ

1991年予算 21,470千ペソで要求中

2. 現状の課題と対応策

(1) C/Pへの技術移転

セミナー数の増加にともない、C/Pがその準備に忙殺され、専門家からの技術移転の時間が取りにくくなっている。

P/TTC側より、議会や他の政府期間からのセミナー数増加の強い要請（特に地方セミナー）があるとの説明があったが、外部講師のより積極的な活用等により、技術移転のための時間を意識的に作っていくよう努力することで合意した。

(2) 短期専門家について

- ・滞在期間をなるべく長くするよう努力する。
- ・短専派遣前に在日フィリピン大使館でブリーフィングを行う。
- ・適当な短専が派遣できない場合は、マーケティングに関する最新の論文・ビジュアル教材を提供する。

(3) 下請企業向けセミナーへの対応

下請企業向けセミナーについては、比側は主に繊維分野について考えているが、繊維以外の分野への拡大も考えている。

調査団は、基本的に枠組についての講義に限定するよう申し入れた。

(4) 地方セミナーへの対応

地方セミナーの講師はあくまでC/Pが進めるべきであるが、C/Pが過去に扱ったことのないトピックについては、専門家が出張して講師を勤める。

(5) 平成2年度供与機材

リストはほぼ出来上っている。A4フォーム大至急提供するよう申し入れた。

(6) 中堅技術者養成対策費

食品検査分野について適用する。時期についてはFDCとの調整の都合上、1991年3月になるとのこと。必ず今年度内に実施したい旨申し入れた。

(詳しくは「輸出検査(食品)」の項を参照)

(7) 機材のメンテナンス

特にAV機材において故障が多発しており、地元代理店では修理に時間がかかりすぎるため、メンテ専門家の派遣もしくはスタッフの日本での研修の要請があった。

調査団はメンテが必要な機材のリストの提出を求めた。

(8) 生産管理・工程管理

生産工程管理は他の機関で扱っているところもあるので、PTTCではイントロダクション程度にとどめる。

PDCには生産工程管理のJICA専門家が2名いるので、彼等を講師として招くことを検討する。

(8) 市場調査の専門家

市場調査(マーケット・リサーチ)の短期専門家およびC/P研修の要請がなされた。

Ⅲ. 個別分野協議事項

1. 貿易研修

(1) 1990年度(1～8月)活動状況

① セミナー実績・内容

プロジェクト3年目に入り、比側は「特定市場向け特定商品の輸出促進」、マーケティング・リサーチ、生産管理と高度な内容のセミナーの開催を希望し、日本側に協力を要請している。この関連で今年初めて「市場参入情報コース」セミナーが3回開催され、うち2回はJICAの短期専門家により「日本向け衣料製品輸出」「日本向け食料品輸出」のセミナーが行われた。

また比側は、地方におけるセミナーの開催にも力を入れはじめ、今年は既に17回の地方セミナーを開催している。

今年度の1月から8月までのセミナー実施状況は以下のとおり。

(セミナー開催状況)

	開催回数	受講者数
[JICA～PTTCプロジェクト]	15	658
輸出基礎コース	(7)	(268)
(内地方開催分)	1	44
輸出マーケティング管理	6	260
原価計算・価格計算	(2)	(93)
(内地方開催分)	1	30
輸出ファイナンス	1	16
商談方法	1	15
輸送費用効率化	1	32
再輸出用輸入	1	32
輸出開発における教育の重要性	2	85
輸出のための組織作り	1	75
信用状	1	128
衣料輸出の再割引	1	123
食品・ギフト・家庭用品・家具の再割引	4	163
市場参入情報コース	(1)	(26)
(内地方開催分)		

合計	36	1401
(内地方開催分)	(10)	(387)
[PRRCと他の機関との共同プロジェクト]	32	1663
(内地方開催分)	(7)	(266)
総計	68	3064
(内地方開催分)	(17)	(653)

② 専門家派遣

長期専門家

奥村専門家 1988. 5～1990. 5 (終了)

川喜多専門家 1988. 5～1991. 1 (予定)

短期専門家

渡辺専門家 (対日衣料輸出)

1990. 7. 25～27 セミナー実施

吉田専門家 (対日食料品輸出)

1990. 8. 6～8 セミナー実施

荒井専門家 (audio visual)

1990. 3/9～6/8

③ カウンターパートへの技術移転

イ. カウンターパートの配置

Mr. David Inocencio

Mr. Francisco Perfecto

Mr. Rommel Augstin

Mr. Bert Bombase

Mr. Laura Go

Ms. Celeste Peralta

Ms. Cristina Capistrano

ロ. 技術移転状況

- ・輸出基礎：講座内容全般への指導、輸出商品／買い手の選択、相手国の輸入制度調査方法、貿易用語、輸出入手続きの概要、国際定義、商談及び契約書での注意事項、輸出原価計算と販売価格設定政策、輸出商品の選択と買手の捜し方、輸出手続き、包装・表示、船荷証券と海上保険、海上・航空運賃の体系、市場調査、商品開発、販売経路の選択と販売促進、輸出戦略、日本の流通事情

- ・商談・契約書作成：申込みと受諾、契約書作成の注意事項

- ・輸出金融：資金の動き、資金繰り表、資金調達方法、制度金融
- ・再輸出のための輸入：講座内容の編成、保税輸入の諸手続き、輸入手続き、保税輸入、保税倉庫・工場、国税還付制度、委託加入のための保税輸入
- ・輸送： 講座内容の編成、運送契約の概要、海上保険の概要、国際規則と運賃同盟、コンテナ輸送と各種複合輸送、フレイト・フォワード

④ 研修員の受け入れ

Mr. David Inocencio(1990. 2～4：市場調査、マーケティング)

(2) 現状の問題点

① セミナー数、受講者数共に大幅に伸びており盛況ではあるが、内容の充実が伴っているかについては疑問あり。特に、外部からは特定市場向け特定商品の輸出促進等の高度な内容の特定テーマのセミナー開催の要望が強く、内部講師陣では対応し切れず外部講師に依存する度合いが高まり、また一方では地方でのセミナー開催の要望が強く、内部講師陣はその準備に追われている状況であり、P T T Cはセミナーのアレンジに徹する傾向が出てきている。その結果、本プロジェクトの本来の目的である比側カウンターパートへの十分な技術移転が困難な状況となっている。

なお、地方におけるセミナーとの関連では、基本的に日本側としては、J I C A 専門家によるマニラのセンターにおけるカウンターパートへの技術移転に重点を置いていることを比側に理解させる必要あり。

② 比側は特定市場向け特定商品マーケティング、生産管理、品質管理等の分野の専門家の派遣を要望しているが、この要望に日本側としてどのように応えていくかが問題。ただし、生産管理、品質管理となると、貿易とは直接関連が薄いことから、どの程度まで協力ができるのか検討の必要あり。

③ あと1年半の協力期間内で比側の高度化した要望に応えるためには、高度で幅広い知識と経験を有する専門家を派遣する必要があるが、現実的にはそのような人材の発掘は非常に困難であり、特に長期専門家を派遣することは難しく、短期専門家を効率よく派遣し、フレキシブルに対応す方途が考えられる。ただし、比側の要望に的確に応じた適任者を派遣するために、派遣する専門家のT. O. R. を明確にして要請させる必要がある。また、比における他のプロジェクトとの関係により対応することについても検討の余地あり。

④ なお、今後の推移にもよるが、本プロジェクトによる技術移転が不十分で、比側から引き続き専門家の派遣要請があるような場合には、フォローアップによる協力を行うか、或は別の技術協力プロジェクトとしての位置付けをする等につき検討を始めることも場合によっては必要。

2. 輸出検査（家具）

(1) 1990年度活動状況

① セミナー開催実績

輸出検査（家具）のセミナーは、1990年度の8月現在で2回開催され、計33の人が参加した。セミナー日数については、前年度が12日間のコースであったものを今年度は6日間に圧縮して実施している。これは、セミナー参加者が属する企業の要望を取り入れたためである。

なお、今年度のセミナーの名称は、基礎工程、品質管理の面を強調する意味で「輸出を目的とした木製家具の耐久性及び品質改善の方法」としている。

今年度は、あと3回を予定。これらは、地方(Pampanga)セミナー及び中小企業対象の生産管理実践コースが含まれている。この生産管理実践コースの講師にはフィリピン家具工業等外部からの協力を得る予定である。

② 専門家の派遣

現在、長期専門家として竹内阪蔵専門家（派遣期間：1987年10月14日～1990年10月13日）が派遣され技術移転に従事している。

③ カウンターパートへの技術移転

現在のカウンターパートは、次のとおりである。

○ Mr. Jesus TORRES (In-house Faculty)

○ Mr. Maximo Din (Laboratory Assistant)

(以上、P T T C)

この他に、外部講師として5名のカウンターパートがいる。

○ Mr. Ricardo CASIN (FPRDI 林産開発研究所)

○ Mr. Melehcio KAXAMANA (")

○ Ms. Adelina MAHAS (")

○ Mr. Jorge MUNDO (CITC 家内工業技術センター)

○ Mr. Romualdo Sta ANA (CFIP フィリピン家具工業会)

技術移転は、主たるカウンターパートであるMr. TORRES が前任者の退職で今年3月に配置されたため、企画に基づく基礎試験を始めから指導した。

指導項目は、

i) 木製家具製品の概要、木材乾燥及び含水率管理

ii) 接合構造及び加工法、接着剤の適正使用

iii) 試料の作成方法

等多義にわたる。また、供与機材の適正使用方法、規格作成も併せて指導している。

④ 教材作成方法

セミナーに用いる教材について、カールスライド、ビデオ教材の作成を行った。現在、12教材中、5教材を作成済み。

⑤ 研修員の受入れ

本年度は、Mr. TORRES を「工業標準化・品質管理シニアコース」（10月30日～11月23日）の集団研修に参加させるよう申請中である。

⑥ 供与機材

供与機材については、問題はない。今年度の要望機材については本年1月に派遣された巡回指導調査団との打合せ内容に基づきA-4フォームによる申請手続きを進めている。

(2) 1991年度年次計画

① セミナー開催計画

1991年度に開催を予定しているセミナーは、次のとおりである。

i) 輸出を目的とした木製家具の耐久性及び品質改善の方法コース

マニラ …………… 3回

地 方 …………… 1回または2回

ii) 生産計画・生産管理コース

マニラ …………… 2回

また、「家具生産のQCツール」等3つのコース新設を検討している。

② カウンターパートへの技術移転

今後の技術移転として、これまで指導した基礎試験の一定の繰り返し指導及び教材作成協力の継続が必要である。

また、塗装、籐家具関係の規格基準、試験方法の指導も要望されている。更に、可能であれば生産管理技術についての指導も望まれている。

③ 短期専門家の派遣要望

工程管理、生産管理、生産性向上分野の指導ができる短期専門家の派遣が要望されている。

(3) 問題点

問題点の1つとして、前任のカウンターパートの転職例のようにカウンターパートの定着性が悪い点があげられる。また、今後のセミナーの運営のためには、更にカウンターパートを増員し、技術移転することが望ましい。

また、今後の技術指導内容に生産性向上、生産管理等生産に係る分野への要望が高まっている中、試験・検査分野の専門家としての指導範囲には限界がある点をカウンターパートと確認しているが、これらの要望への対応が今後の課題である。

3. 輸出検査（繊維）

(1) 1990年度活動状況

① セミナー開催実績

輸出検査（繊維）のセミナーは、1990年度の8月現在で11回開催され、合計210人が参加した。

今年度のセミナーは、前年度のセミナー（平均5日間）を分割して実施しており、回数を増やし、日数を減らしている（平均3日間）。これは、家具のセミナーと同様であるが、企業の要望を取れ入れたためである。

今年度は、あと5回を予定している。また、協力機関であるPTRI（フィリピン繊維研究所）の援助を受け、染色技術コースの開設を検討中である。

② 専門家の派遣

現在、長期専門家として、塚越郁生専門家（派遣期間：1989年10月3日～1991年10月2日）が派遣され、技術移転に従事している。

また、短期専門家として、塩飽裕専門家（派遣期間：1990年2月20日～4月19日）が派遣され、衣料品に対する中間検査等の指導を長期専門家と協力して行った。

③ カウンターパートへの技術移転

現在のカウンターパートは次のとおりである。

○

Ms. Edith GAPANGADA (Im-house Faculty)

○

Ms. Myline MANGOSING（試験・検査課）

（以上、PTTC）

このほかに外部講師として、次のカウンターパート及び関係者がいる。

氏名	年令	所属先	専攻	備考
Ms. CARIDAD CUCHON	44	PTRI	化学	技術サービス課長 1981 日本 品質管理研修 1985 ドイツ 貿易研修 1986 日本 繊維機械研修
Mr. ALFREDO ALCANTARA	48	PTRI	繊維	1986 日本 繊維研修 1988 イギリス 綿、ニット研修
Ms. GRORIA BONDAD	41	PTRI	化学	1989 日本 繊維検査技術研修
Ms. LILLIAN ABILLERA	31	PTRI	化学	1990 日本 (予定)
Ms. FLOREN PAGSISIHAN	38	PTRI	被服	
Mr. ANDRES RAMIREZ	51	PTRI	電気	1977 日本 機械研修
Ms. ELIJIAH DORIA	28	PTRI	化学	
Ms. VILMA AUTEA	35	PTRI	被服	

Ms. CORA LLORICO	3 3	P T R I	化学			
Ms. CARMELA BABOR	3 1	P T R I	化学			
Ms. JOVITA HAYIN	4 7	P T R I	繊維	1976	日本	機械研修
Ms. MIRASOL PICO	3 0	P T R I	化学			
Ms. DAIZY LOPES	3 7	P T R I	化学	1987	日本	機械研修
Ms. MILA ILAGAN	3 6	P T R I	化学			
Ms. CAROL TAYAG	2 8	P T R I	化学	1987	日本	コンピューター研修
Ms. EMERENCIA CORNISTA	3 9	P T R I	化学	1984	スイス	化学研修
Mr. SEVERION LIM	3 8	P T R I	被服			
Ms. BRIGIDA PBINGUAR	3 8	P T R I	化学	1984	ドイツ	染色研修
				1979	日本	機織研修
Mr. FRANCIACO ARGUELLES	3 8	P T R I	化学	1985	ポーランド	紡織研修
Ms. LITA PEDRUGAO	4 7	P T R I	繊維			
Ms. LOVEMIDA TIBERIO	4 8	P T R I	化学			
その他関係者						
Ms. BELESIDA TOLENTINO		PDC-DAP				
Mr. LEY VILLAMIN		PDC-DAP				
Ms. SUSAN SORIANO		PDC-DAP				
Dr. ANGELITA DIZON	5 5	U P	被服			

備考) P T T C …… Philippine Trade Training Center
P T R I …… Philippine Textile Research Institute
PDC-DAP …… Productivity & Development Center, Development Academy of the Phil.
U P …… University of Philippines

技術指導項目は、

- i) 抜き取り検査手法
- ii) 縫製技術情報
- iii) 繊維混用率試験技術
- iv) 有害物質（繊維加工剤）の分析技術
- v) 衣料品外観検査技術

また、試験・検査機器操作技術も併せて指導している。

④ 教材作成協力

セミナーに用いる教材について、テキストの見直し、修正指導及び修正案の提出を行っている。また、今年度は衣料品の外観検査標準動作研修用のビデオの作成を短期専門家とともに実施した。

⑤ 研修員受入れ

今年度は、Ms. GAPANGADA を衣料品の品質管理について習得するため、通商産業検査所にて個別研修を予定している。時期は、1991年3月下旬から約1ヶ月の見込み。

⑥ 供与機材

供与済み機材中、織物検反機については、付属品の設置要望が出ている。

今年度の要望機材については、家具分野同様、本年1月に派遣された巡回指導調査団との打合せ内容に基づきA-4フォームによる申請手続きを進めている。

(2) 1991年度年次計画

① セミナー開催計画

1991年度に開催を予定しているセミナーは、すでに計9回が具体化されている。

内訳は次のとおり。

- i) 生地及び衣料品検査コース 3回
- ii) 衣料品工学の品質管理 3回
- iii) 染色堅ろう度試験及び有害物質分析 1回
- iv) 繊維混用率試験 1回
- v) 耐久性試験 1回

また、「生地及び衣料品検査コース」については、地方セミナーを2回予定している。更に、中小企業の要望によって、「適正材料選別コース」及び「染色技術コース」の開設を検討中である。

② カウンターパートへの技術移転

今後の技術移転内容は、次のとおり。

- i) 試験・検査における判定技術等は、一定の繰り返し指導を行わないと定着しないため、これまでの指導内容をさらに深める必要がある。
- ii) セミナー教材の一層の充実のための協力が必要である。特にAV教材は、効率的、効果的なセミナー運営に有用である。
- iii) 試験・検査機器の操作技術については、本プロジェクト終了後に備えて、そのマニュアルづくりを行う必要がある。

③ 短期専門家の派遣要望

製編工程(Knitting)及び染色工程に係る生産管理、品質管理ができる短期専門家の派遣が要望されている。

(3) 問題点

家具分野と同様な問題が繊維分野にもあてはまる。すなわち、カウンターパートの定着性の問題並びに生産に係る分野の協力要望への対応である。

また、繊維分野における問題として、前年のセミナーを分割し、日数を縮めたため人気がないセミナーが生じている。繊維分野のセミナーには基本的な5種類のセミナーを全て受講することにより全般的な知識を得る内容になっているが、試験・検査だけの内容のセミナーは、一般受けしない。試験・検査が品質管理の中の重要要素であることをカウンターパートを

通じて更に浸透させていく必要がある。

4. 輸出検査（食品）

(1) 1990年度活動状況

① セミナー

1990年1～8月までの実績は、次表のとおり。

	コ ー ス 名	実 施 月 日	受 講 者 数
1	加工食品の包装と表示	2. 27～3. 2	25名
2	缶詰の品質管理	3. 26～ 30	16名
3	冷凍魚・水産製品の品質検査	5. 21～ 25	14名
4	果実・野菜及びその加工品の品質 試験・検査（基礎コース）	7. 23～ 27	17名
	合 計		72名

器材、薬剤の関係から1、4の基礎的コースは、PTTCで、2、3の基礎卒業的コースはFDCで開催されている。

参加者の適正規模は、実習する際の器材の数から考えて15～18名であるということなのでおおむね円滑にセミナーは運ばれていると考えられる。

1、2、4においては、In-houseのカウンターパートであるMs. Luz C. Lizada が講師を努めており、特にPTTCのみで行うものについては、彼女がメイン講師として運営されることになっている。

9月～12月までのセミナー予定は次のとおりである。

- | | | |
|---|-----------------------|-----------|
| 5 | 食品添加物の使用、申請書、輸出仕様 | 9. 12～14 |
| 6 | 食品加工時の機器の品質管理 | 10. 1～5 |
| 7 | 食品検査及び製品開発における官能による評価 | 10. 16～19 |
| 8 | 加工果実・野菜の品質検査 | 11. 19～23 |

5、7が初めて導入するコースで、5については、輸出を考えた。食品添加物の利用や日本、米国等で許可されている添加物の情報などが内容となっている。なお、この2つのコースについては、BFAD（フィリピン厚生省食品薬品局）、UP（フィリピン大学）から専門家が講師として協力することとなっている。

全体として、昨年よりもより輸出を意識した内容にもっていかうとする意欲が表れており、少しずつ内容がよくなってきていることは確かである。

中堅技術者研修については、(4)で述べる。

② 専門家派遣

1月に長期専門家の秋野氏が帰国し、専門家不在となっているが、11月に新任として田原氏が長期専門家で着任する予定である。

短期専門家については、中堅技術者研修に合せて、派遣するよう比側が希望していることから研修カリキュラム内容に適当な人材の派遣については検討する必要がある。

③ C/Pへの技術移転

前年に引続きIn-houseのC/PとしてMs. Luz C. Lizada, Ms. Gert Malicdem が技術移転の対象となっているが、専門家が1～10月まで不在のため、新たな技術移転はなされていない。しかしながら、Ms. Lizada, Ms. Malicdemは、日本での研修の成果等を生かし、基礎的なコースについては協力機関であるFDC（食品開発センター）の手を借りずにセミナーを運営できるようになっている。

④ 研修員の受入れ

In-houseのC/PであるMs. Luz C. Lizada が'90.3月～6月東京農林規格検査所を中心とする食品検査についての研修を受けた。

(2) 1991年度年次計画

① セミナー計画

1991年度の食品検査に関するセミナー計画は次のとおり。

既存のコース

- ㉔ 加工食品の包装及び表示
- ㉕ 貿易工業省職員のための果実・野菜製品の試験・検査
- ㉖ 食品加工時の器材の品質管理
- ㉗ 缶詰の品質管理

新規コース

- ㉘ 優良製造規範及び食品工場の衛生
- ㉙ 食品製造における危険分析と危機管理ポイント
- ㉚ 加工食品の包装資材の試験と品質評価

他の研究機関によるコース

- ㉛ 生鮮果実・野菜の輸出仕様
- ㉜ 生鮮果実・野菜の輸出包装
- ㉝ 輸出用果実・野菜の収穫後の取扱い

② 技術移転計画

本年11月に長期専門家として田原氏が着任する予定であり、基礎的な衛生に係る検査をはじめとする食品検査の実力をC/Pにつけさせる予定である。

③ 研修員の受入れ

PDCなどから希望があるようであるが、田原氏の着任してから適当な者と相談の上選定することとなっている。

④ 要請機材

本プロジェクトも後半を迎え輸出を意識した技術移転ということになれば、最低限の衛生検査を行える実力をC/Pが持つことが必要である。その意味からも、C/PがFDCに移動しなくても専門家から常に指導を受けられるよう最低限の細菌検査が行える機材が必要であり、比側もそれを要望している。

(3) 現状の問題点

本プロジェクトも後半に入り、輸出を意識したセミナー開設、専門家の選定、派遣を行っているが、あまりにそれを強く意識するがあまりに、セミナーに追われC/Pへのセミナー開催の負担が大きくなって肝心のC/Pへの技術移転がおろそかになる傾向がうかがえる。このため、セミナーの開設を適切にするための日比双方の話し合いが現場で必要と思われる。

また、比側が、あまりに輸出に(=売れる)側面を強調するがあまり、基礎を固めることがおろそかにならぬよう日側が注意する必要もあると思われる。

従って、食品の衛生検査等の技術移転においては、高価なガスクロマトグラフ等の使用はデモンストレーションにとどめ簡易な機材での分析ができるようにこころがけることが必要であろう。

(4) 中堅技術者養成対策費の活用

地方振興は比政府の重要な政策になっているにもかかわらず、中央や国外の情報は、地方にはなかなかいかないのが現状である。

そこで、地方において影響力のある貿易工業省の職員及び地方農業大学の教授が実際に食品工場での指導ができるよう、食品検査及び製造工程上の半製品の検査を習得させることをねらいとして中堅技術者養成研修を行うこととして日側がその経費を補助することとしている。

内容は、基礎科目として食品衛生、保蔵、化学分析等検査技術として、水分活性、鮮度測定、官能検査、包装検査、品質表示等さらに品質管理として品質管理手法、工程管理等であり、食品開発センター(FPC)を中心に、工場等の現場見学等をまじえ行うこととしている。

5. 展示

(1) 1990 (1~8月) 活動状況

① セミナー実績・内容

今年度既に12回のセミナーを行い410名の受講者があった。

(セミナー実施状況)

	開催回数	受講者数
トレードフェアへの参加と最大限の効果	9	269
(内地方開催分)	(7)	(192)
展示の技術的・創造的側面	3	141
合計	12	410
(内地方開催分)	(7)	(192)

② 専門家派遣

長期専門家 なし

短期専門家 なし

③ カウンターパートへの技術移転

イ. カウンターパートの配置

Mr. Denais Crnz

Mr. Doi Risete

④ 研修員受入れ

なし

(2) 現状の問題点

① 現在長期専門家がいない状態であるが、比側は専門家の派遣を希望。

② 特に、特殊なフェアの経験があり、比側カウンターパートに十分アドバイスができる人を希望。専門家の派遣については検討の必要あり。

③ また、日本のトレード・フェアの計画段階から終了までの過程に参加できる形でのカウンターパートの派遣(研修生の受入)或は日本のその分野の学校への入学派遣を希望。夏には、一度日本に派遣した研修員の知識等をアップデートするための日本への再派遣及びフェアへの参加についても要望。

これらについては、ふさわしいフェアを捜すことが事実上困難。再派遣については制度上は可能であるか、理由づけが難しい。また日本の学校への入学の件は、言葉の問題あり。

④ 一方、機材については、ライティング・システム、ディスプレイ・システム、ビデオ・

テープ・レコーダ、コンピュータ・グラフィック・イクイップメント等の供与を希望。これについては、要請リストの提出を求めた。

- ⑤ また、オーディオ・システムのメンテナンスを行うために、メンテナンス技術移転ミッションの派遣を要望。しかし、これに応えることは現状では困難。

6. 商業日本語

(1) 1990年度活動実績

① セミナー開催実績

期 間	コ ー ス 名	講師（下線は中心となった者）	受講者
1 / 19 ~ 3 / 16	レベル1	関谷・ <u>Somosot</u> ・Santos	27
1 / 29 ~ 2 / 9	レベル1（於セブ）	関谷・Somosot・Santos	75
3 / 23 ~ 5 / 25	レベル2	関谷・ <u>Somosot</u> ・Santos	15
3 / 23 ~ 5 / 25	レベル1	<u>Somosot</u> ・Santos	16
2 / 14 ~ 6 / 27	グラジュエイトコース	関谷・	6
6 / 8 ~ 8 / 3	レベル1	関谷・Somosot・ <u>Santos</u> ・Jao・茂住	19
6 / 8 ~ 8 / 31	レベル3	茂住・関谷・Somosot	13
7 / 11 ~ 11 / 28	グラジュエイトコース	茂住・	5

9 / 3 ~ 11 / 29	レベル4	茂住・Somosot	
10 / 5 ~ 11 / 29	レベル1	茂住・ <u>Santos</u> ・Jao	
10 / 5 ~ 11 / 29	レベル2	茂住・ <u>Santos</u>	
12 / 3・7	能力試験対策直前コース	茂住・Somosot	

② 教材の整備状況

レベル1・2 …… テキスト、Reference Book、絵カード、文字カード、VTRなど
ほぼ整備されている。

レベル3 …… ほぼ整備されているが、絵カード、VTRが未整備。

レベル4 …… 未着手。

クラジュエイトコース …… テキストのみ。

③ 技術移転状況

・ Ms. Del Balite-Somosot

優秀なC/Pであり、レベル3までは単独で運営できる。しかし大学院進学に加えて今年出産を控え、現在は週1回の時間講師である。今後もfull-time の出勤は望めそうもない。

・ Ms. Belen Santos

ともに優秀なC/Pであり、今年7月12日から9月20日まで日本研修を行っている。
ただ彼女もカナダ移住を考えており、P T T Cに残る可能性はあまりない。

・ Mr. Nestor Jao

6月にP T T Cに入った新しいC/Pであり、日本在住17年で日本語は達者であるが、日本語を「教える」レベルに達するにはまだ時間がかかりそうである。現在、専門家の授業を参観してもらっている。

全コースをC/Pのみで運営するまはまた難しい状況である。

④ 専門家派遣

関谷ナナ 1988. 3. 24 ~ 1990. 6. 23

茂住和世 1990. 5. 27 ~ 1882. 2. 23

(2) 1991年度計画

① セミナー運営 今年度とはほぼ同様の内容を考えているが、詳細は未定。

② 教材の整備 来年度は最終年度であるので、未整備の教材の作成に力を入れたい。

③ C/P受け入れ 来年度は予定なし。

④ 要請機材 ・ 「バックアップ装置」： 急な停電のときに数分間電気を供給する装置。ワープロに必要であり、現在こわれている。

・ ワープロのプリンター： 1台のヘッドがこわれており、部分的に修理するより買い替えたほうが安いとのこと。

(3) 商業日本語の位置付けの再確認

当初比喩は、日本の新聞を読んで経済情報を入手する、日本語で商談を行う、といったレベルまで考えていたようであるが、現在の授業時間数ではそこまではとても無理である。

協議の結果、P T T Cの商業日本語では、基礎日本語の伝授のほか、日本のbusiness culture の紹介、business practices (日本の商取引現場の雰囲気等) の紹介をその目的とすることとした。

またそのために、貿易研修の専門家の助力が不可欠であることが確認された。

IV. 調査団所感

P T T Cに対するプロジェクト方式技術協力は1992年2月に終了することになっており、それまでの1年5カ月で残された技術移転項目を終了させる計画となっている。

本センターに対する分野毎の技術移転状況は各論にまかせるとして、ここでは現段階でP T T Cが抱える問題点、技術移転状況等を概括的に捉えるとともに、それについての調査団の所感を述べることにしたい。

1. プロジェクトの抱える問題点

(1) センター設置時の協力目標が不明確。従って、分野毎の到達目標も不明確。

これは、本プロジェクトに限ったことではなく、プロジェクト協力全般に言えることである。

しかし、ハードな技術を取り扱うプロジェクトでは明確な到達目標が設定してなくとも、技術そのものがもつ範囲や供与機材の組み合わせにより、自ずと協力の範囲も定ってくるのが普通である。

しかし、その性格上、標記の問題をクリアにしない限り、協力目標が常に移動し、それに応じて協力の範囲も拡大する一方であるにも拘らず、相手側は完全に満たされない飢餓感を常に味わうことになるのである。

従って、本センターにおいては上記を念頭において、当初明確でなかった協力目標を改めて設定し、これに基づいて協力の方向を調整する必要がある。

貿易研修センター、特にフィリピンにおけるプロジェクトは、その目的について、彼我の考え方に大きな違いがある。

即ち、日本側はセンターの目的は、貿易に携わる人材（既就労者及び潜在就労者）の育成であり、これを行うことによって、フィリピンの貿易振興に寄与することを考えているのに対し、フィリピン側は、本センターは単に貿易実務や検査技術についての研修を行う訓練所ではないと考えているのである。比側の考えではセンターは貿易関係の研修を与えるだけでは不十分であり、受講者を実際の取引の現場で行われている取引の実務や慣行に習熟させるとともに、特定品目の市場における販売上のノウハウまでを身につけさせ、これにより、参加者はコース履修後直ちに貿易の現場において実力を発揮することを狙っているのである。

つまり、日本側は参加者が貿易実務や輸出検査についての実務的な基礎技術取得を目指し、それから先の技術や知識は企業内のO J T或いは実戦で獲得すべきと考えているのに対し、比側はコース履修後直ちに輸出増大に役立つ技術や知識、更には輸出品目の品質改善についても日本側の協力を求めているのである。

日本側としてはこの彼我の目的・目標の相違を調整し、かつ協力効果のあがる方策を検討する必要がある。

(2) CP配置問題

この種の貿易研修センターの特徴とも言えるが、講師は内部講師のみでは対応できず、多数の外部講師に依存している。

日本側としては当初、専門家からの技術移転をうけ、なおかつそれをフィリピンの技術として発展せしめる講師（CP）は可能な限り内部の者とするよう相手側に要請したが、実際にはそのようにはなっておらず、多数の外部講師がコースやセミナーの講義を受けもっているのが実情である。しかし翻って考えると、必要とする講師を全て内部講師としてPTTCが抱えることは理想ではあるが、予算上の制約、身分の不安定（PTTCスタッフは官庁の出向者を除き全員嘱託である）等が改善されない限り、これは実現不可能である。

一方、コース参加者についてみると、特に貿易実務コースはその殆んどが、貿易従事者であり、基礎的な研修を受けるだけでは満足せず、自分たちの個々の問題についての解決策を講師に求めてくることが多い。

こうなると、講師は単に貿易関係の知識をもっているだけでは不十分であり、どうしても実務経験がないと質問に対して適確な回答がなせないことになる。

こうなると、課目によっては内部講師が無理をして担当するよりも、知識・経験とも豊富な外部講師をセミナーの期間だけリクルートした方が効果的ということになる。

よって課目の特性により、内部講師が担当すべき課目と、外部講師の担当がより妥当と思われる課目を分け、講師毎の守備範囲を設定するのが効率的である。

そして、そのうえで専門家は内部講師には基本的な技術移転を行い、外部講師に対しては余力があれば技術移転を行うが、なければアドバイスのみを行えばよい。

これらのことは、すでに日本側では口頭で比側に伝えてはいたが、明確な形で日・比のコンセンサスが得られていた訳ではなく、あいまいな形で相互が理解しているにすぎなかった。

しかし、日本の協力が終りに近づいていることでもあり、センターの今後の自主運営のためにも、専門家チームからセンター・マネージメントに対し講師配置のあり方について明確に確認しておく必要がある。

(3) CPへの技術移転上の問題

貿易実務、検査部門、商業日本語のいずれの分野でもCPへの技術移転は順調に行われていると言えるが、CPが多忙過ぎて専門家の指導を十分に受ける余力がないことが専門家から指摘されている。

これはCPが少ないにも拘らず、センターが余りにも多くのコースやセミナーを開催するため、CPがこれらの講師を担当することに加えて、開講前準備や終了後の整理等に忙殺さ

れているため、専門家が彼らにsystematicに技術移転を行う状態にないためである。

日本側は、協力期間中はCPが知識や技術を習得することに主眼をおくべきであり、外部からの受講者を招いて研修事業を行うことは、本格的な研修事業の準備活動或いは一種のサービス業務として位置づけているのである。

しかし、比側は、日本が協力中であろうとなかろうと、センターの役割は研修事業を行うことであり、可能な限り多くのコースやセミナーを開催して工業省等政府機関及び産業界の希望に応じていきたいと考えているのである。

そのため、調査団がセンター・マネージメントに対して、コース数を減らしてCPに専門家から技術移転を受ける余裕を与えて欲しいと申し入れても、マネージメントは一定数のコースを開講するよう政府より要請されているとして、調査団の申し入れには応じていないのである。

2. 今後の課題

(1) 貿易実務

専門家の一部には異論があるかも知れないが、貿易実務の基礎的事項はすでに技術移転がほぼ終了し、今後はフィリピン産の特定品目の市場をいかに開拓するかと云うマーケティング論が技術移転の中心となる必要がある。

特定品目としては食品、衣服、及び家具があげられるが、市場としては一応日本市場について我が方専門家の指導が必要である。

評価を厳しくすればCPは未だ基礎的事項についても十分に知識・技術を身につけてはいないと云えるかも知れないが、センターの本来のあり方を考えると、この辺で基礎は終了し、応用問題としての市場論に移って行くのが妥当と考えられる。

勿論既移転の事項であっても、協力期間中は必要に応じてCPに対し専門家が補講を行うべきであることは云うまでもない。

(2) 地方セミナー

センター・マネージメントはフィリピン政府の地方重視政策にのっとり、マニラにおいてのみならず、地方においてもコースを実施しているが、これには限界がある。

それは地方におけるコースでは道具以外の機材の使用が不可能なため、内容が限られること及び地方では参加者がtraderは少なく、むしろ製造業者や下請業者の比率が高くなるので、訓練ニーズに適應したカリキュラム、コース内容を簡単には提供しえないこと等である。

しかし、それでもセンター・マネージメントが政府の要請により地方研修を実施する場合、その講師はCPまたは外部講師が勤め、専門家はセンター内での業務の多忙さを考えると、特に必要ないと思われる。

(3) 品質管理技術

比側は貿易実務や検査技術の移転のみでは直ちに輸出振興につながらず、製品の品質向上を行って始めてこれが可能になると考えている。このため、品質向上のための指導も我が国から得たいと考え始めている。

輸出振興を抜本的に行うためには、貿易実務や検査技術の向上のみでは不十分であり、製品の品質そのものを向上させる必要があることは言うまでもない。

比側の要望はコース参加者の中、製造業者の比率が高いことから理解できるものである。

しかし、輸出振興に関係があるからと云って、製造技術の向上や品質管理、生産管理までをこのセンターの活動にすることは、センターの役割を遙かに越えているばかりか、妥当性がない。

製造技術については、個々の技術毎に検討すべきことであり、本センターでは輸出に際しての問題点を指摘または改善点の提言を行うにとどめるべきである。

品質管理及び生産管理についても、同様であり、これらは輸出だけの問題ではなく、製品を生産する基礎として本格的に取り組むべきことである。

従って、本センターでこれらを扱う場合は、考え方について紹介する程度で充分である。

なお、品質管理、生産管理、労務管理等について研修する機関としてP.D.Cがマニラ市にあり、ここに日本人専門家が2人派遣され、専門コースも開設されているので、これらの研修を受けたい者は、貿易研修センターではなく、同センターで受講すべきである。

(4) 他の先進国による協力

フィリピンは自国産品のマーケットを巾広く開拓したいと云う希望をもち、米国をはじめ、イギリス、カナダ、ドイツ等とも連携をもち、これらの国の負担によりP.T.T.Cでセミナーを開催している。

センターが我が国の協力期間中でも、いくつかの国と連携をとり、それぞれの国のマーケットの特性を学び、また関連セミナーを開催することは極めて有意義である。

日本人専門家がアメリカ市場やヨーロッパ市場の特性について指導することは極めて困難であり、就中フィリピン産品のこれらの市場での販売可能性などを日本人専門家が指導することは妥当性がないばかりか不可能である。

従って、比側が他の先進国の協力により、これらの国でのマーケティングを学ぶことは有益であり、結構ことである。しかし、C.Pの数も少ないことから、日本の協力期間中はC.Pが我が方専門家からの技術移転を中心に据え、余力があれば、他国からの技術移転を受けると云うのが望ましいことである。

3. P T T Cの将来

P T T Cに対する日本の協力が1992年2月に終了することから、比側としても種々計画があると聞いている。

比側は未だ日本側には公表しないが、「P T T C 5 年計画」の策定を開始した由である。そして、その中で将来におけるP T T C組織のあり方を検討したり、或いはP T T Cを財政的に支援する財団の設立も検討されていると聞いている。

フィリピン側が日本の協力によりハード面とソフト面において充実したセンターを今後益々発展させて行こうと計画していることは極めて喜ばしいことである。

しかし、我々の目からみると、比側関係者はP T T Cの活動に期待する余り、余りにも多くの機能をセンターにもたせようとし、このため、センターが必要以上の重責を負う計画を自ら策定して苦しんでいるように見える。

センター設立当初のP T T Cの役割は貿易に従事する人材を養成し、もって比国の貿易振興に資すると云うことであった。

センターが提供するコースは受講者が学校で得た基礎の上に立って、企業に入ってから役立つ知識及び技術を与え、或いは企業（主として中小）に在籍している従業員に対して貿易実務の基礎を教え（貿易実務分野の場合）、より効果的業務を行いうるよう資質を向上せしめようとするものである。

センターが与えるのはあくまでgeneral な知識・技術であって、参加者が受講後直ちに自社製品の輸出を大幅に増大できるようになると云うものではない。

自社製品の品質を高めたり、マーケットを開拓したりすることは受講者がセンターで得た知識・技術を基礎として、自己の企業内で独自のノウハウを開発し、それによって始めて可能となるものであり、人から得た既存の知識だけでは何も進展しないのである。

即ち、輸出振興のためのノウハウは専門家やC Pが与える知識や技術によって完成するものではなく、受講者が後日自らの力によって開発して行くものなのである。

比側関係者は上述のことを充分理解しておらず、受講者の要望に引きずられて、漠然と技術移転の対象となる「輸出ノウハウ」なるものが存在すると信じて、我が方にその提供を求めているのである。

しかし、そのようなものはある筈がなく、またあるとしても、それは各企業が永年の努力と経験によって作りあげたノウハウであって、決して他者が用意に手に入れたり、或いはまねたりする性質のものではない。

専門家がなすべきことは可能な限り基礎を巾広く指導し、その上に立って日本が行っている貿易実務の実際や検査方法の技法等を教え、また日本市場の特性を紹介するとともに、日本が行った輸出市場開拓の経験を紹介することである。

そしてCPはこれらを基礎として比国にもっとも適した貿易業務のあり方を自らの努力により研究し、その成果を受講者に提供すべきである。

CPが専門家に対し、受講者に直ちに提供できる知識・技術・資料等の提供を求めても、これは貿易研修センターの特質を考えれば無理なことである。

輸出についてのノウハウは人に求めるものではなく、自ら努力して獲得するものである。

以上の見地から、本センターはすでに基礎的事項については充分技術移転を終了したと考えられ、残った期間内に日本の経験を主として紹介、或いは基礎の補足を行えば日本の協力目的はほぼ達成されるものと思われる。

付属資料 1. ミニッツ


MINUTES OF DISCUSSIONS
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE PROJECT ON THE PHILIPPINE TRADE TRAINING CENTER
IN THE REPUBLIC OF THE PHILIPPINES

The Japanese Consultation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as " JICA ") and headed by Mr. Yukitoshi NAGASAWA, Director of the Technical Cooperation Division, Mining and Industrial Development Cooperation Department, JICA, visited the Republic of the Philippines from September 5 to September 12, 1990 for the purpose of reviewing the activities of the project for the Philippine Trade Training Center in the Republic of the Philippines (hereinafter referred to as "the Project") and working out the Annual Work Plan for the further promotion of the Project.

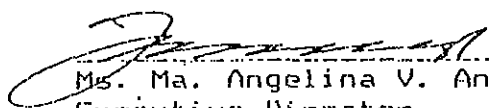
During its stay in the Republic of the Philippines, the Team exchanged views and had a series of discussions with Philippine authorities concerned in respect of the achievement of technical cooperation conducted on the Records of Discussions, Tentative Schedule of Implementation signed on February 23, 1987 and the Annual Work Plan signed on January 11, 1990 and necessary measures to be taken by JICA and FTTC for the successful implementation of the above-mentioned Project.

As the result of discussions, both parties mutually agreed upon the matters referred to in the document attached hereto and to make the utmost efforts for the effective and successful implementation of the Project during the cooperation period.

Manila, September 11, 1990



Mr. Yukitoshi NAGASAWA
Leader,
Japanese Consultation Team,
Japan International
Cooperation Agency,
Japan



Ms. Ma. Angelina V. Angeles
Executive Director,
Philippine Trade
Training Center,
Department of Trade & Industry
The Republic of the Philippines

RECORDS OF DISCUSSION
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE PROJECT OF THE PHILIPPINE TRADE TRAINING CENTER
IN THE REPUBLIC OF THE PHILIPPINES

I. ACCOMPLISHMENT OF THE PROJECT: JAN. - AUG. 1990

The PTTC presented the accomplishments of the project for the period under review:

1. Three training needs analysis surveys were conducted:
 - a. Subcontracting of garments - the TNA survey was conducted in compliance with the agreement in the Joint Committee Meeting held in January this year for PTTC to look into the possibility of conducting a series of seminars on Subcontracting.
 - b. Export Merchandising - the TNA was conducted in response to the requests of the Foreign Buyers Association of the Philippines for the conduct of a seminar for export merchandisers.
 - c. Quality Inspection and Testing of Rattan Furniture - a TNA was conducted as programmed by the Center
2. The Center has developed 17 new curricula in the first seven months of this year.
3. The Center likewise developed and/or improved 10 training packs and 13 audio visual materials.

The despatch of JICA expert for audio-visual, Mr. Arai, was of tremendous help to the Center, particularly in upgrading the production capability of the Center's current a/v staff. As a result of Mr. Arai's three month stay, the following VTR materials were improved or initiated:

- a. Prospects of Philippine Wooden Toys (improved)
- b. conversion of artwork to video training materials for the Business Japanese Language.

- c. Testing and Inspection of Garments (developed and implemented)
 - d. VTR training material on Transportation and Containerization for the Basics of Exporting seminar (Conceptualization, scripting and shooting done. Editing of the material was left to the staff since Mr. Arai had to leave for Japan.)
4. The Center conducted 102 seminar/workshops for the past 7 months, generating 4,191 participants. Of these, 70 were conducted under the project with 2,528 participants.

Twenty-five regional seminars have been conducted focusing largely on Trade Business and Trade Exhibition.

5. The faculty development program for the first half of the year consisted of:
- a. Individualized training as provided under the JICA-PTTC Terms of Reference. Three faculty members were trained in Japan (one on Testing & Inspection of Food, one on Trade Business, and another on Japanese Language).
 - b. Counterpart training was provided by the JICA experts on the following:
 - 1. Dieldrin Analysis (provided by Mr. Tsukagoehi)
 - 2. Garment Testing and Inspection (provided by Mr. Shiwaku)
 - 3. Curriculum development for Improving the Quality and Durability of Furniture (guidance provided by Mr. Takeuchi)
 - 4. Curriculum and materials development for the Market Penetration Courses on Food and Garments to Japan (guidance provided by Messrs. Okumura and Kawakita). New materials for the

seminars were sent in to the Center by Mr. Watanabe and Ms. Yoshida.

6. Pursuant to the timetable agreed upon in the last consultation meeting held with the JICA mission in January, the following short and long term experts were sent to the Center:
 - a. Mr. Shiwaku
 - b. Mr. Arai
 - c. Mr. Watanabe
 - d. Ms. Yoshida
 - e. Ms. Mozumi (replacing Ms. Nana Sekiya)
 - f. Mr. Miki (replacing Mr. Ebina)
7. Utilization of the Center's facilities for the 7 (seven) months was on the average 75%.

II. DISCUSSIONS ON THE ACCOMPLISHMENTS:

A. Number of courses offered:

The JICA mission noted that the increasing number of course offerings of the Center doesn't give much time for the Center's faculty to study and learn from the JICA experts available under the project. Mr. Nagasawa suggested that the in-house faculty be given more free time to get the know-how from both the short and long-term experts.

PTTC pointed out that ever since PTTC was created, the trade training activities of other DTI agencies have been absorbed by the Center. This necessarily puts a pressure on the Center to respond to the requests particularly to those coming from the regional offices. Furthermore, in view of the regionalization thrusts of the government, the Congress is now looking into how the Center has responded to the requests for assistance from the regions.

Notwithstanding this pressure, the PTTC suggested the following courses of action:

1. The JICA experts develop the training program and schedule for their counterparts so that time is allotted for these training sessions.
2. PTTC will rationalize the faculty load such

that a maximum number of hours for seminar management and lecturing shall be defined. The excess hours may now be divided for curriculum development, training with counterparts and research.

3. PTTC shall further strengthen its roster of part-time faculty, who shall increasingly be called upon to take the extra teaching load of the full-time faculty.

B. Short Term Experts:

PTTC suggested that short term experts stay longer than the usual 1 week. An ideal stay for short term experts is an average of three months. This will give the Filipino counterparts more time to discuss with the short term experts, prepare the seminar's content and reading materials jointly, and conduct the seminars together. As it is, a one week stay hardly gives the Filipino counterpart the time to discuss with the short term expert.

PTTC likewise suggested that the short and long term experts have a briefing session with the Commercial Attache at the Philippine Embassy prior to their departure for Manila. This was found to be useful in the case of Mr. Watanabe and Ms. Yoshida, who were properly briefed on the conditions and situations of the small and medium exporters in the country.

The JICA mission pointed out the difficulty in finding the right expert with the appropriate experience and knowledge, who at the same time would have the available time to be away from his business for 3 months. At the same time, the JICA mission noted that short and long term experts are sent to the Center with the primary objective of transferring the knowledge, and expertise to the local counterpart. They however recognize that while this is the Technical Cooperation's main objective, there is need, in certain instances, for the experts to directly disseminate the information and knowledge to the participants. This is particularly true if the expert can stay for only a week.

JICA suggested other ways of providing information on the market in cases of unavailability of experts. An example would be through the sending of relevant documentation and researches. PTTC responded that as

far as the MPCs are concerned, mere documentation fails to capture the Japanese market situation. Film or video clips and slides on the Japanese market may be needed to augment the documentation or research.

In view of the above, the following courses of actions have been agreed upon:

1. JICA will do its best to comply with the request for a longer stay for the short term expert. PTTC recognizes the problems faced by JICA in this regard.
2. Even if the expert stay for a short period, the short term expert is expected to transfer the knowledge and information to the Filipino counterpart. In this connection, the counterpart shall be prepared to absorb this knowledge. JICA will endeavor to prepare the teaching materials before the experts are sent to the Center.
3. Prior to their trip to the Philippines, the experts shall meet the commercial attache at the Philippine Embassy for a briefing on the government's export programs (with specific reference to PTTC's role) and situation of the small and medium exporters in the Philippines.
4. In cases where short term experts will not be available, JICA will send the latest documentation and research on the subject matter which the Filipino counterpart and the long term experts may use in the development of the curriculums for an MPC. In addition, films and video clips and slides on the Japanese market for the specific merchandise in focus, shall be provided so that the conduct of the MPC becomes more relevant.
5. For the Center to develop its own video or slide compilation of the Japanese market, the Faculty sent to Japan for training shall take video footage of the market situation. These footage shall be used for the MPCs or other Trade Business courses.

In this connection, the JICA mission shall refer this matter to their training department and inquire if it is possible to lend a portable video equipment to the

faculty while in Japan. PTTC shall train the faculty concerned on how to operate the machine prior to his departure from Manila.

6. In addition, clippings of relevant news articles found in the Japanese journals (printed in English) which the Center regularly receives shall be incorporated into the Center's data bank.

C. Subcontracting for Garments:

The JICA mission inquired on the course outline of the Subcontracting Course, and expressed its apprehension on the need to limit discussions on production management to its basic framework and a mere overview.

PTTC replied that the proposed curriculum is for a 3-day course which will focus on key topics such as the issues and opportunities in garments subcontracting, planning, organizing and production management and control, costing and pricing as well as a general overview of manpower management. Asked if a similar seminar is being planned for the other products, PTTC replied that this possibility is still being considered.

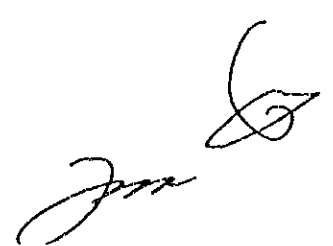
PTTC clarified that PTTC went ahead with the development of the subcontracting course in view of the agreement of the Joint Committee last January for PTTC to offer this workshop. The purpose of the subcontracting seminar is to give potential and new subcontractors an overview of the subcontracting business.

D. Japanese Business Language:

The JICA mission noted that the present B JL courses are not enough to develop the needed proficiency for exporters to read business news in Japanese.

The PTTC management clarified that the Business Japanese Language courses are offered to exporters for them to be able to get by in Japan when they visit the country. In addition, the Center hopes that the exporters will be introduced to the Japanese business culture through the examples cited in the classes.

PTTC noted that currently, the practice of inviting the Japanese trade business experts to share their



experiences with the participants has proven to be effective. PTTC suggested the development of more exercises and examples on Japanese business practices. This could be developed by the Business Japanese experts and faculty together with the Trade Business experts.

JICA agreed to carry out the request.

PTTC likewise explored the possibility for a short term expert on Japanese Business practices to design a course on How to deal with Japanese Importers/businessmen.

JICA will look into this.

E. Regional Seminars:

PTTC noted the increasing demand for regional seminars particularly for Testing and Inspection courses. These however could not possibly be undertaken in the regions due to the unavailability of appropriate laboratory facilities in the provinces. PTTC noted that the laboratory facilities to be put in place under the JICA standardization, if materialized, program will make it possible for PTTC to bring the Testing and Inspection courses to the regions.

The JICA mission noted that the full-time faculty going to the regions are expected to be the main instructors for the seminar except for new topics which they have not handled before. JICA experts joining the regional seminars are expected to talk on specific topics which his counterpart otherwise cannot cover. PTTC agreed to this.

F. Trade Exhibitions:

PTTC noted that the basic courses on Trade Exhibitions are now in place. What needs to be done is to update the faculty on the latest developments in exhibition technology and trends for him to be a more effective resource person. In this connection, PTTC proposed that the faculty on exhibition be sent to Japan for further exposure on the latest trends in this area. The training should preferably be timed with a major on-going international trade fair where the Philippines is participating.

JICA noted that this is possible as long as the area of training is not the same as the previous trainings

provided for Trade exhibition.

PTTC likewise requested for additional equipment for the exhibition training. Specifically, these are exhibition lights (to demonstrate the various lighting techniques in exhibition) and pedestals for the exhibition modules during the mock-up exhibit exercises.

JICA suggested that these be included in the equipment request list for 1990 with proper justifications for JICA's perusal.

G. Trade Business:

PTTC noted that in the last Joint Committee meeting held in January of this year, there was a request for a package design expert. This has not yet been sent and is needed as pointed out again in the recently concluded Joint Committee held on September 8, 1990. Short term experts on package design for food and furniture are needed.

JICA shall endeavour to comply with this. The terms of reference however should be submitted by PTTC to JICA on this matter.

H. Testing and Inspection:

1. Food: The JICA mission inquired on the actual schedule of the Trainer's Training Workshop for Food. PTTC noted that upon the request of FDC to postpone the conduct of the seminar, the seminar shall be conducted not later than the end of March, 1991.

In preparation for the arrival of Mr. Tawara, PTTC requested for basic equipment for microbiological analysis. These shall be incorporated in the equipment request list for 1990.

2. Garments: The basic courses for testing and inspection for garments are now in place. However, in view of the feedback of the garment exporters on the need to know how to style or use a fabric given its properties, there is need for an expert on this area.

The courses under Testing and Inspection is now

incorporating concepts on quality control. There is need for an expert who can relate the common consumer complaints regarding garments to the design of quality assurance systems for garments is needed.

Likewise, to support its current courses, PTTC requests for additional equipment for garment testing. The list shall be submitted to the mission and incorporate this to the equipment request for 1990.

Noting the difficulty in finding an expert on the areas identified, JICA explained to PTTC that it shall do its best in meeting the Center's requirements. In case of difficulty however, JICA and PTTC agreed that documentation or written researches on the matter together with appropriate film or video clips may be sent:

3. Furniture: The curriculum on Testing and Inspection for Furniture has been revised to include topics on processing, which most of the participants have been requesting for. The new curriculum is shorter in duration and based on the initial feedback of the curriculum, the participants find this most useful.

Considering that most participants would want to know how to meet standards, in addition to testing their furniture against standards, there is a need for an expert on process. Specifically, an expert on finishes and paints is requested by PTTC.

The long term expert for furniture is due to return to Japan in October. JICA shall take into consideration PTTC's request for an expert on process, possibly on finishes and paints.

I. Audio-Visual Production:

PTTC noted that due to time limitation, Mr Arai's project on audio-visual production for Transportation and Containerization was not finished. The PTTC staff is now reviewing the video footage taken during Mr. Arai's visit, and is waiting for the revised script of Mr. Arai, for them to be able to continue with the editing work.

Considering the need for further training on

development of instructional media, PTTC requested JICA for another short term expert, if Mr. Arai is not available.

The JICA mission asked PTTC to submit to JICA a Terms of Reference for the expert, and specify the expert's expected output.

J. Maintenance of the PTTC Equipment:

PTTC noted the need for a maintenance program for the sensitive equipment, particularly in A/V. PTTC is encountering some problems with some of the local agents or distributors of the equipment, since repairs of some equipment takes a long time.

Noting that most of the equipment are expected to start breaking down in the next year or so, PTTC requested that its maintenance staff be trained by an equipment maintenance expert. If this is not possible, to explore the possibility of training PTTC's maintenance staff in Japan.

The JICA mission noted that it is not JICA's policy to send a maintenance expert. What JICA sends are repair missions. In the case of PTTC, JICA requested PTTC to submit a list of its equipment requiring maintenance so that JICA could look into its request.

K. Transportation Problems:

Among the problems encountered by the Center in servicing the seminar requirements is transportation. The Center needs one more passenger vehicle to service its increasing frequency of conducting the regional seminars, particularly in the Luzon area. With the increasing number of seminars, the Center finds itself sometimes without enough transportation to even transport its faculty to the nearby provinces or its participants to plant visits. The other vehicles are used to service the seminar requirements of simultaneously -ran seminars.

In addition, the Center needs at least 2 motorcycles to ensure a faster delivery of its letters, one of the major means of informing former participants of forthcoming seminars. The mail has proven to be slow. Often times, participants received their letters of invitation after the event.

JICA noted the request of PTTC.

II. PLANS FOR THE BALANCE OF THE YEAR:

A. Production Management:

JICA expressed its apprehension on the directions of PTTC on Production Management. PTTC was cautioned to limit its course offerings to a brief introduction or an overview of this subject. Other existing institutions would have the clear mandate and expertise to go into this more deeply.

Clarifying to JICA its intention as far as the Production Management workshops are concerned, the Center management noted that PTTC wishes to limit production management to its general framework and practice. The feedback from PTTC participants on the Testing and Inspection courses shows the need for an understanding of the larger framework of Production Management and Quality Assurance and Improvement.

In this connection, JICA suggested that PTTC link up with other agencies such as the Productivity Development Center, which has 2 JICA experts on productivity with knowledge and expertise on production management and quality control.

In view of the above, it was agreed that PTTC shall explore the possibility of tapping the PDC experts for the development of a production management course for the Center.

B. Market Research:

PTTC plans to offer the market research seminar as part of its core course. In this connection, a short term expert on Market Research for Business Decision makers is needed. In addition, faculty training in Japan on this area is likewise needed.

JICA will look for possible experts in this area.

ANNUAL WORK PLAN (From October 1990 to February 1992)

Calendar Year	1991												1992				
	1990												1991		1992		
Japanese Fiscal Year	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb
Item																	
(Philippine Side)																	
1. Operation of the Center																	
2. Staff Recruitment																	
3. Allocation of Counterpart Personnel																	
4. Preparation of A2, A3 Forms for Training Philippine Counterparts in Japan																	
5. Preparation of M Forms for Provision of Equipment																	
(Japanese Side)																	
1. Dispatch of Japanese Experts																	
a) Long-term Experts																	
1. Leader (Chief Advisor)																	
2. Coordinator																	
3. Trade Training (A)																	
4. Trade Training (B)																	
5. Inspection (Furniture)																	
6. Inspection (Garment)																	
7. Inspection (Food)																	
8. Business Japanese Language																	

ANNUAL WORK PLAN (From October 1990 to February 1992)

Calendar Year	1991												1992				
	1990						1991						1992				
Japanese Fiscal Year	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb
Item																	
b) Short-Term Experts 1. Trade Training (Market Research) 2. Inspection (Industrial Goods) 3. Inspection (Food) 4. Exhibition												(Several Experts)					
2. Dispatch of Japanese Evaluation Team																	
3. Training of Philippine Counterpart Personnel in Japan												(5 Counterparts)					
4. Provision of Equipment and Machinery																	

Note: This Plan is subject to condition that necessary budget will be acquired for the implementation of the Project.

This Plan is subject to change within the scope of the Record of Discussions.

付屬資料 2. Joint Commiffie Meeting 議事録

MINUTES OF THE DISCUSSION
OF THE TECHNICAL COOPERATION TEAM
OF THE JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)
FOR THE PHILIPPINE TRADE TRAINING CENTER (PTTC)
JOINT COMMITTEE MEETING

8 September 1990

MATTERS DISCUSSED

I. Review of PTTC's Accomplishment (Jan. to Aug. 1990)

The Accomplishment Report of PTTC for the period January to August 1990 (see attached) was presented. An audio-visual show on the accomplishments complemented the written report which was distributed among the members of the committee.

A. Points clarified on the Report

1) Ms. Angeles noted the increasing demand for regional seminars. While seminars under Trade Business and Trade Exhibitions are brought to the regions, the Center is unable to service the growing clamor for regional seminars on Testing & Inspection seminars due to the lack of laboratory facilities in the provinces. The Center looks forward to the approval and implementation of the JICA Standardization Project where the setting up of laboratory facilities in the regions is a component.

2) Mr. Nagasawa inquired on the seeming conflicting statement on the lack of facilities and the report's stated facility utilization of 75%. Ms. Angeles clarified that the lack of facilities is not a problem in Manila, since the Center is fully equipped. The problem on the lack of training facilities is faced in the conduct of regional seminars, particularly in testing and inspection.

II. Thrusts of PTTC for the Balance of the Year

A. For the balance of the year, the Center shall implement the following new courses:

1. Exhibition Selling

This course was developed upon the request of CITEM in view of the increasing complaints received from foreign buyers on the lack of professional know-how by stand personnel to answer basic inquiries. This is an unprogrammed activity, but due to the urgency of the problem which must be addressed in preparation for the forthcoming Market week, PTTC agreed to conduct the seminars.

Six seminars are scheduled for this year. CITEM has requested that this seminar be a regular offering since participation to this seminar is now mandatory for all Market Week participants. Stand personnel who do not pass the seminar will not be allowed to man the booth.

Effectivity of the seminar shall be encountered through the survey among buyers during the market week.

2. Export Merchandising

The Export Merchandising course shall be implemented in October. The course is designed to develop assistant merchandisers for the export sector and foreign buying offices based in the Philippines.

3. Testing and Inspection

PTTC shall bring the Testing and Inspection Seminar on Furniture to Pampanga. Likewise the Center hopes to implement the Production Management Course for Furniture this year.

B. Faculty Development

Currently, the Center is in the process of finalizing the training programs for the selected faculty. In addition, PTTC will be organizing a facilitator's course for its faculty and part-time faculty to hopefully improve their platform skills and their management of the training events. With respect to the JICA-PTTC project on Trainor's Training for Food, the Center proposes to conduct within the first quarter of 1991. The Center will await the long-term expert for food to review the curriculum which was earlier submitted by the Center and approved by JICA.

C. Plans of PTTC

PTTC plans to limit the conduct of core courses which are meant for would-be and existing exporters. Topics of said courses are pretty general in nature. The Center has identified five courses under the Trade Business or Export Marketing course:

- a. Basics of Exporting- an existing course which merely requires review and revision
- b. Planning, Budgeting and Financing- tried once but there is a need to further develop the curriculum
- c. Costing and Pricing- a curriculum already in place but requires updating of contents
- d. Market Research- needs to be fully developed for implementation

- e. Production Management- based on feedback of exporters as well as analysis of our export performance of the Philippines a need for assistance on this topic was identified and the Center feels that it is here that it can make its contribution.

As far as Trade Exhibition courses are concerned, the basic curriculums are in place. However, they need to be updated on the latest developments in exhibitions technologies and approaches. In addition, the Center intends to absorb as a regular feature of its courses the Sales Presentation or Exhibition Selling Module.

Regarding the Japanese Business Language courses, the Center will put more emphasis on the Japanese Business culture. The Center realizes that the current BJL courses I-IV are not enough to equip the exporters to be fully conversant in Japanese business language. The intention of offering these courses is to help them get by in Japan and the Center feels that the conversational approach is effective. However, the Center wants to have more examples on the Japanese business practices and incorporate these as the language is taught.

The Center hopes to integrate the Japanese business culture lectures into the MPC for a better understanding of Filipino exporters on how to deal with their Japanese counterparts. The Center hopes to continue the MPC and focus on food, furniture and garments for the next three years. In addition, the Center plans to put in place an advisory service and eventually develop this into professional consultancy service.

D. Requests for Assistance to JICA

In view of its plans, the Center identified the following areas which will require assistance from the project:

1. Short Term Experts

a) Short term experts in marketing of furniture, food and garments (for Trade Business). Based on the experience, PPTC requests that short term experts stay for 3 months for them to train or transfer their knowledge/information to the Filipino counterparts, and conduct Market Penetration Courses together with the counterpart faculty.

b) Short term experts for Testing and Inspection (food, furniture, and garments). Testing and Inspection seminars are now incorporating QC concepts and short term experts on these will be needed.

- for Food, short term expert on Quality Control with knowledge of processing. The intention is to link the testing and inspection seminars to the process which could build a QC framework.

- for Furniture, a short term expert on paints and finishes.

2. Trade Exhibition Training

The basic curriculums in Trade Exhibition are in place. However, there is a need to update the knowledge of the curriculum to take into consideration the latest developments and approaches to Trade Exhibition.

In this connection, the Center proposes that the JICA training for the faculty coincide with a major international trade fair in Japan wherein the Philippines is participating. The faculty could be sent before the fair for him to see how the fair is organized and prepared, and stay on up to about a month or 3 weeks after the event. In this way, the faculty will be exposed to the preparations, conduct and post-event activities in a major international fair.

3. Audio Visual Production

The Center is also requesting JICA for further assistance on audio visual production. The training provided by Mr. Arai has resulted in the pursuit of a lot of projects and the A/V material earlier viewed has been one of the products of that learning experience of PTTC staff. However, there are still a number of things left unfinished because Mr. Arai had to leave after three months. Due to the time constraints, it was agreed upon that Mr. Arai do what he can only accomplish and leave assignments to the staff which they could work on their own. The Center is requesting for Mr. Arai or of somebody with that similar qualifications on A/V-based training materials and expertise be sent back to train the A/V staff.

III. Discussions with JICA Mission

A. Mr. Nagasawa acknowledged the explanation of Ms. Angeles of the accomplishments of PTTC for 1990 and he expressed the agreement that cooperation needs with JICA is strongly felt. He then commented on the requests from JICA just made by Mrs. Angeles.

1. While long term experts have long been recognized by JICA as the key for technical cooperation, JICA likewise acknowledged the need to dispatch short term experts, particularly for the Center's MPCs. However, short term experts willing to stay beyond a week are difficult to

find. Since these are largely business executives, their time availability is most often a problem. Furthermore, the short term experts should be able to speak English, or else PTTC should be prepared to provide an interpreter. He however, assured the committee that JICA is doing everything to select the people they will send. He requested that they be informed in advance of the terms of reference of the expert required.

2. In the case of food technology and food inspection course, there is a lack of experts and there is no one to replace Mr. Akino. However, Mr. Tawara who is capable enough to conduct technology transfer to the counterpart until the end of the coverage period which is February 1992 will be sent.

3. Regarding the request for an A/V expert, Mr. Arai is currently in Thailand and will be coming back in November. If he is available, Mr. Arai will be sent back to the Philippines for about three months. He expressed hope that the Center will make the necessary preparations for Mr. Arai's arrival for it to benefit the most.

4. In the case of the Quality Control and Production Management, in conducting the course, a special expert is needed who is quite capable in Quality Control or Production Management with a vast knowledge on the production side of the industry to give the proper technology. Mr. Nagasawa emphasized the need to prepare the Filipino counterparts who can absorb the technology from experts.

B. Short Term Experts

Mr. Nagasawa clarified that short and long term experts are sent primarily to transfer the knowledge and technology to the local counterparts, and deliver lectures to the participants as the workshop is implemented. In view of this, the criteria used in selecting short term experts is their ability to provide that transfer of knowledge to the Filipino counterparts, and prepare a textbook/handout that might be useful to the trainer someday.

Mr. Tirona noted that JICA should be aware of the cultural differences in the Philippines wherein the participants look to foreigners as the experts rather than the local lecturers. It is a fact that more participants attend courses when there are foreigners doing the lecturing and this aspect should be considered. With foreigners lecturing, the credibility of the Center is raised and the local expert can take over from there.

Mr. Nagasawa explained that JICA follows guidelines in the sending of experts but exceptionally experts may also

lecture directly to the participants if needed especially in courses such as the MPC. Complete knowledge transfer to counterparts is difficult to achieve so there is a need for the experts to deliver lectures to the participants. However, the said experts cannot be sent back so many times within a year to deliver the same lecture since this may be criticized by the JICA in Japan since they are not aware of the Filipino way of thinking. Thus, in preparing for the course, the counterpart has to work with the short-term expert in the preparation of textbooks/handouts and absorb at least 50% of what should be said to participants. In doing so, he can absorb knowledge from the short-term expert even if the expert delivers the lecture directly to participants. Otherwise, the counterpart only becomes one of the audience. In the future, PTTC has to sustain without the assistance of a foreign country and JICA is preparing the Center for this. He also gave assurance that JICA will cooperate even beyond its ordinary regulations.

Ms. Angeles pointed that given the terms of reference that JICA has as far as the short-term experts are concerned, the proposal of PTTC for the short-term expert to stay beyond one week is reinforced. It is impossible for the counterpart to absorb everything and be able to run the course on his own after. Besides, there is hardly any time for the development of handouts/training materials and the further discussion of the curriculum content.

Mr. Nagasawa replied that short term experts will be sent for a longer period of time. But he asked the committee to understand their situation. It is hard to look for a Japanese short-term expert. He also suggested that before an expert is dispatched, there should be close coordination with the Filipino commercial attache, who will provide the expert a written guideline on the needs of the industry.

C. Equipment Maintenance

Ms. Debbie Tolentino, Chief of the Publications and Information Division of PTTC, voiced her concern on equipment maintenance. She expressed the need to acquire in house capability to maintain PTTC facilities. In cases of breakdowns, JICA's response was to send Japanese technicians to repair the equipments. Ms. Tolentino's request was to send technicians to train the staff in maintenance work.

Mr. Nagasawa explained that JICA seldom sends technicians because this is very difficult to grant as well as being expensive. He instead requested for a list of equipments that need maintenance. Ms. Tolentino asked if the staff could be sent for training to Japan instead. To this, Mr. Nagasawa replied that this is more difficult to grant due to the limit on the number of counterparts being sent for training.

Noting that during the early part of the project, a staff was sent to Japan for further study on operations and maintenance of A/V equipment, Ms. Angeles suggested that JICA look into the possibility of allowing training for PTTC maintenance staff.

IV. Concerns and Proposals of Joint Committee Members

A. Short Term Expert on Packaging Design

Ms. Minerva Franco, Executive Director of Product Development and Design Center Philippines (PDDCP) noted that in the last Joint Committee, a request for a short term expert on food packaging design was approved by the committee.

In view of the limited time short term experts can give, she suggested that experts be allowed to stay for 2 to 3 weeks to train the counterparts, and then leave some assignments to the counterparts so that when the expert comes back to Manila for another 2 to 3 weeks stay, follow-up and review of the assignments could be made.

B. Design Experts

Ms. Lita Madulid of CITEM noted that CITEM and PDDCP had the chance to work with 2 Japanese experts on packaging design. The experts were sent by the Asean Promotion Center several years back prior to PTTC's existence. These experts were well received by the private sector. She will be providing JICA the names of these experts.

Mr. Nagasawa noted that JICA has not yet found a packaging expert for the project. He welcomed the offer of Ms. Madulid to provide JICA with possible names. However, he noted that JICA does not provide consultancy fees to the companies of these experts, as may be the practice of other agencies.

Ms. Franco also noted that with MPCs becoming more product specific, there is a need for design experts who could teach counterparts on updating designs to Japanese markets.

Ms. Madulid stressed the need for design experts in view of the unique tastes of the Japanese consumers. She cited the recent experience of furniture exporters who participated in the recent Tokyo International Furniture Fair.

Assistance in Testing and Inspection of the product was provided by PTTC Faculty and long term expert. However, the design of the furniture were not fit for the Japanese market. Mr. Nagasawa replied that JICA shall look into the request.

C. Interpreters

Ms. Franco noted that while interpreters in the Philippines are available, the interpreters hardly are able to interpret technical terms.

To this, Mr. Kawakita suggested that translation of work of short term experts, particularly those on technical terms may be made in Japan.

D. Expert on Food

Mr. Albert Cariso of FDC noted that the arrival of an expert on microbiological analysis and sanitation and hygiene is most timely. He added that expertise or knowledge on design of food plants to limit the entry of filth in the production place will be useful.

Mr. Nagasawa confirmed the arrival of Mr. Tawara in October, an expert on fish and meat. However, he does not know if Mr. Tawara knows design of food plants. With Mr. Tawara's knowledge of food, Mr. Nagasawa noted that he might be able to help.

E. Testing and Inspection Facilities in the Regions

Ms. Melba Valdez of BPS again raised the issue of the PTTC Testing and Inspection Courses being conducted in the regions. This is in connection with their standardization program. Without the proper equipments, it would be impossible to conduct these seminars. She again asked JICA to consider their requests for equipments on testing & inspection in order to successfully implement their standardization program.

Mr. Nagasawa informed her that they are still consulting other agencies in Japan.

F. CITC Cooperation in the Project

Ms. Emeline Navera of CITC, pointed out their contribution in the conduct of the PTTC workshops on furniture in the skills development side. With PTTC planning to conduct courses on Production Management, CITC could offer assistance in this area. She thanked JICA for the assistance provided and requested JICA to recognize the need to upgrade the capabilities of CITC.

Mr. Nagasawa answered that although JICA is unable to send an expert to CITC, they can also avail of the services of the experts sent to PTTC.

G. Local Experts

Ms. Angeles inquired if JICA could look into the possibility of the tapping Filipino experts in view of the difficulty of sourcing experts from Japan.

Mr. Nagasawa answered that JICA has never done this before due to the regulations involved.

ADJOURNMENT

There being no other matters to be discussed, the meeting was adjourned at 12:45 p.m.

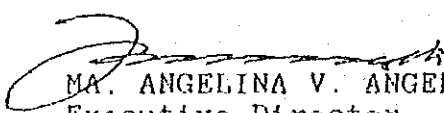
Prepared by:

Florideliz Fatima E. Samaniego

FLORDELIZ FATINA SAMANIEGO

PRESCILLA MARCELANG

ATTESTED BY:


MA. ANGELINA V. ANGELES
Executive Director

PRESENT:

A. PHILIPPINES

1. MS. MA. ANGELINA V. ANGELES
Executive Director, PTTC
2. MR. ANTONIO J. TRIA TIRONA
Special Asst. to the Undersecretary
International Trade Group
Department of Trade and Industry
3. MS. MINERVA FRANCO
Executive Director, PDDCP
4. MS. ARACELI PINTO
Chief Executive Officer, CITEM
5. MS. MELBA VALDEZ
Director, BFS
6. MS. EMELINE NAVERA
Officer in Charge, CITC
7. MR. ALBERT CARISO
Chief, Training and Materials Dev't. FDC
8. MS. MA. CRISTINA V. BONDOC
Deputy Executive Director, PTTC
9. MS. ADELAIDA INTON
Chief, Trade Business Division
10. MS. DEBBIE TOLENTINO
Chief, Publications and Information Division
11. MS. BEATRIZ DE JESUS
OIC, Planning and Programming Division
12. MS. MARITESS DITA
Asst. Chief, Finance and Administrative Services Division
13. MR. REY ESTEVES
Senior Trade and Industry Development Specialist
14. MR. RONALDO LIMBAGO
Trade and Industry Development Specialist
15. MS. FLORDELIZ FATIMA SAMANIEGO
Information Officer I
16. MS. PRISCILLA MARCELANG
Trade and Industry Development Analyst

4. MR. SAKAZO TAKEUCHI
Inspection (Furniture)

5. MR. IKUO TSUKAGOSHI
Inspection (Garments)

6. MS. KAZUYO MOZUMI
Japanese Business Language